



Justice & Vigor

発信：弁護士法人

シティサンライズ法律事務所

弁護士 浦田 益之

弁護士 和田 恵

弁護士 磯谷 太一

Tel 058-265-1708

✉ info@urata-law.com

二大政党離れ

- 1, 注目を集めていたイギリスの統一地方選挙（5月7日）の結果が出た。
（従来の二大政党）
労働党 1498 減の 1068 議席（21.1%）
保守党 563 減の 801 議席（15.9%）
（右派ポピュリスト政党）
リフォームUK改革党 2→1454 議席（28.9%）
（左派ポピュリスト政党）
緑の党 146→587 議席（11.7%）
予想されていたとおり、与党の労働党が大敗した。
保守党は14年間政権を握っていたが、生活が苦しくなった有権者は2年前の総選挙で労働党に政権を託した。
しかし、変化はなく、有権者の大政党に対する失望が続いてきた。
今や、イギリス以外にも、世界の大国で二大政党離れが起きており、多党化の時代に入った。
- 2, ドイツやフランスでは、老舗政党が苦戦を強いられ、日本でも保守を中心に新党結成が相次いでいる。
日本保守党
参政党
日本維新の会
アメリカにしても、共和・民主両党共に路線を巡って違いが生じつつある。
トランプ大統領のイランへの武力攻撃は、共和党の強力地盤であったキリスト教福音派に混乱をもたらしている。
- 3, 確かに、長く続く二大政党に有権者がうんざり感を抱いている。
どちらの政党にしても、政策を自由に変える余地が殆んどなくなっていることがその原因だ。
その一方で、時代の状況が大きく変わってきた。
一つには、移民の流入、富裕層の脱出、多様性の広がりなど環境が違ってきた。
国防費の拡大が財政を圧迫したりもする。
かつての右か左か、小さい政府か大きい政府かの二択では民意が汲み取れなくなっている。
もう一つは、SNSの普及による「エコーチェンバー現象」を見逃す訳にいかない。
心地よい意見や過激な主張が幅を利かせ、新党ブームを支えたりもする。
- 4, 民意を反映させるには、比例代表制ではなく、小選挙区の下での多党化では膨大な死票が出るといった問題もある。

「遺憾に思う」とは

- 1, 日本と中国との関係が、2025年11月、高市首相の強硬発言（台湾有事は日本の有事）で険悪化しているなかで、東京に在る中国大使館に陸上自衛隊勤務の3等陸尉が刃物を持って侵入した事件が発生した。
中国側は、すぐにでも、「中国外交官を殺害すると脅迫した」と主張し、警視庁は「大使に意見をいって受け入れられないときは、自決して相手を驚かせようとした」と説明する。
ところで、「外交に関するウィーン条約」（1961年採択）では、外交官を受け入れた国（接受国）は大使館など公館への侵入・損壊を防止する義務を負っている。
中国側は、この条約に基づき、強く抗議し、日本の対応について、自衛隊員の管理・教育ができておらず、条約にも違反すると批判している。
一方、日本は、とりあえず、遺憾の意を伝え、法令に従って再発防止等の適切な対応と取ると表明した。
- 2, 企業や組織、政治家も、不祥事を起こしたときは、決まって、遺憾に思うとか、誠に遺憾と述べたりする。
これに対して、文脈にもよるが、そこには謝罪の意向が含まれているのかが問われる。
確かに、遺憾の意味するところは、「思い通りにいかず心残りなこと」（広辞苑）とあり、相手方に対する謝罪を指していないようだ。
期待した通りにならず、残念で心残りである、あるいは不満であるという気持ちを表現するにすぎず、不祥事に対する残念の意味や、軽い非難、抗議を伝える際に多用されている。
日本は、中国側の主張を、ことさらに単なる申し入れと受け止め、エスカレートするおそれを避けるためか、遺憾の意に留めたものと想像される。
これでは、今後中国側の反発を招くことになるだろう。
- 3, 刑事公判では、交通事故犯罪のうち悪意な運転や過失運転によって致死傷の結果をもたらすものがあるほか、より重罪の危険運転致死傷の弁護を担当することがある。
その際、気になることに、被告人が被害者または遺族に対してすぐ謝罪に出向かない（被害者側が怒っていることを理由にする）、あるいは保険会社任せの対応を取る（保険会社が直接対応することを禁じるのに乗じる）の事例が目につく。
それに、過失の原因としては、日常生活上のリスク要因が重なっており、重大事故の場合、その背後には29の小さな予兆＝ヒヤリハットが、またその裏に300のリスク要因が潜んでいること（1：29：300のハインリッヒの法則）を自覚せずにいる。
不祥事対処の一般原則についていえば、①謝罪を尽くすこと、②反省自戒すること、③事故原因を探り当てること、④被害の回復に万全を期すこと、⑤再発防止策を構築することの5原則になるところ、これもまた、多くはそこまでの考えが及ばないでいる。

次回案内 岐阜放送「ぎふチャン」

浦田益之の言われてみれば…7月22日（毎月第4水曜日午後4時5分から）